

	<p>発行 兵庫県公立高等学校 P T A 連 合 会 事務局 〒650-0012 神戸市 中央区北長狭通5丁目5番12号 兵庫県土地改良会館2階 兵庫県公立高等学校PTA連合会 TEL (078) 371-7080 FAX (078) 371-0056</p>
--	---

	<h2 style="text-align: center;">「ワンアンドオンリー」</h2> <p style="text-align: center;">兵庫県公立高等学校PTA連合会 会長 堀 恵里 (県立加古川東高等学校)</p>
---	--

兵庫県公立高等学校PTA連合会は特別支援学校を含む135校のPTA・育友会による学校教育の振興に協力し、会員の研修並びに相互の連絡と親睦をはかることを目的とする組織です。加盟の単位PTA会長・会員の皆さまにおかれましては日頃より本連合会の活動に多大なるご協力、ご支援を賜り、心より感謝申し上げます。また副会長をはじめとする役員・理事の皆さまと事務局の力添えに厚く御礼申し上げます。

私たちの住む兵庫県は、摂津・播磨・丹波・但馬・淡路という歴史も風土も異なる個性豊かな五国からできています。さらに本連合会は神戸淡路・阪神・丹有・東播磨・西播磨・但馬の6つの地区から構成されています。それぞれの地域や学校を取り巻く環境は異なりますが、同じ高校生を子どもに持つ親であり、子どもの健やかな成長を願う気持ちは同じです。これまでの発展と同様に多様な地域との交流を通じてつながりを深め、互いに活動の活性化や問題解決に取り組むことで今後ますますの発展につながっていくと思います。

12月6日には本会研究大会・PTCA全県研究大会が行われます。舞子高等学校を主幹校とし、神戸・淡路地区単位PTA並びに校長会のご協力のもと、神戸芸術センターで開催されます。実践発表には神戸・淡路地区から淡路三原高等学校、阪神地区から尼崎高等学校、丹有地区から三田祥雲館高等学校が発表されます。開催にあたりご尽力いただく皆さまに感謝申し上げるとともに、大会が実り多きものと

なりますよう期待しております。

また去る7月13日に第50回近畿地区高等学校PTA連合会兵庫県大会がアクリエひめじにて開催されました。大会テーマ「これからの時代～思いやり、支えあい、互いに感謝～」はまさにこれからの時代を生きていく子どもたちに向けてPTAには何ができるのかを模索していく中で、多くのヒントを得ることができた大会だったのではないのでしょうか。歓迎アトラクションでの姫路東高校邦楽部の演奏と農業高校・北条高校の生け花の共演、福崎高校・播磨福崎高校ギターマンドリン部と夢前高校の明神太鼓の演奏では、各々の活動での努力が他校とのコラボレーションでさらに素晴らしいもの進化し、会場全体が感動に包まれるのを感じました。催事場では農業高校・佐用高校・山崎高校・篠山東雲高校・上郡高校・淡路高校から様々な農産物や加工品の販売にご協力いただき、その品質や技術・技能に感動し、生き生きと接客する生徒たちの姿に活力をいただきました。開催にあたりご尽力いただいた皆さま、また多くの参加者の皆さまに深く感謝申し上げます。

子ども達の個性や才能を伸ばし明るい未来を創造するサポートをするため、皆さまの活動におきましても「PTAと学校が手を組み、21世紀の若者をたくましく、正しく育てる」という本連合会の趣旨を生かしていただき、未来を担う世代の育成にご協力いただきますようお願いいたします。

100年の歩みとこれから

県立夢野台高等学校

本校は、大正十四年に兵庫県立第二神戸高等女学校として設立され、今年、令和七年に創立百周年という大きな節目を迎えます。

二年前より、学校・PTA・親蔭会（同窓会）が協力し「百周年記念事業実行委員会」を立ち上げ、準備を重ねてまいりました。

そして、今年十月十日には神戸文化ホールにて記念式典が開催され、翌十一日にはホテルオークラにて親蔭会主催による記念祝賀会が行われる予定です。

百年の歴史の重みと、多くの先輩方が築かれてきた伝統を振り返りながら、新しい時代にふさわしい歩みを刻む機会となることを願っております。



さて、本校PTAは、他校のように学年ごとの役職や専門委員を置かず、本部役員とサポーターの皆さまの協力で活動を進めています。人数的には小規模ではありますが、その分、先生方との連絡体制がスムーズで、細やかな点で生徒に寄り添える活動ができていると感じております。

行事の裏方としての支えや日常の連絡調整など、表に出ることは少ないものの、確かな絆と協力のもとに成り立っていることを心強く思います。

また、今年度からは新しい取り組みとして、広報誌のWeb化や、生徒を対象としたWebアンケートの実施など、デジタルを活用した活動を始めました。まだ不慣れな部分も多くありますが、保護者と学校、そして生徒をつなぐ新しい形として、可能性を感じております。これらの挑戦は、これからのPTA活動をより身近で、より開かれたものにしていく一歩になればと思っております。

創立百周年を迎える今こそ、今までの歩みを大切にしつつ、子どもたちの未来を支える存在としてPTAの在り方を改めて考える時でもあるかと思えます。

小さな規模だからこそできる柔軟さと温かさを強みに、これからも先生方や保護者の皆さまと力を合わせ、生徒たちの成長を支えてまいりたいと思います。

(PTA会長 中野典子)



長田高校のPTA活動

県立長田高等学校

本校PTAでは、生徒活動への経済的支援、保護者間の情報共有と親睦、教職員の負担軽減を三本柱に活動を行っています。

生徒活動の支援では、部活動を中心に、県大会や全国大会への派遣費用、外部講師謝金、施設利用料などを、規約に基づき援助しています。近年は遠征費の高騰や、生徒の活躍により大会出場の機会が増えたことから、予算の調整や公平な配分に課題が生じ、昨年度より支援規約の見直しを進めています。さらに、応援タオルの配布や体育祭でのスポーツドリンク提供、卒業記念品など、生徒全体に還元される活動も行っています。

保護者向けの取り組みでは、進路への関心が高いことから、2年生を対象に社会で活躍する卒業生を招いての「ようこそ先輩」授業を開催。保護者向けにも、前年度卒業生の保護者を招き、3年時の家庭体験談を共有する講演会を行っています。親睦促進の場としては、食堂試食会、文化講演会、学年別研修会などを実施。また、文化祭では卒業生の制服譲渡会に併設した喫茶店を開催し、保護者間の交流の場としても盛況でした。

教職員の負担軽減策としては、保護者と学校の連絡用アプリを導入し、欠席連絡や事務連絡をWeb上で行えるようにすることで、電話対応や資料配布の負担軽減を図っています。

本部役員は立候補制で選出していますが、皆が仕事の合間での活動となるため、旧習形式的な会議運営を見直し、LINEやZoomを活用した効率的な情報共有を推進。権限と役割分担を明確にし、無理なく楽しく取り組める運営で「大人のクラブ活動」のように前向きな気持ちで活動できるよう努めています。

(PTA会長 土屋 淳)

よい父母になること

県立北須磨高等学校

昭和29年、当時の文部省が作成した参考規約にPTAの第一の活動と規定された文言（一部抜粋）です。多様性を尊重する現代においてはほとんど意味のない言葉ですが、PTAが輸入された当時、その活動の第一として「よい父母になること」を規定した思いに立ち返り、自分たちのこれまでの活動を見直すと同時にこれからの活動を考えていくことはとても大切なことです。

本校は昭和47年開設、平成14年に単位制高等学校として再編され、令和3年に創立50周年を迎えました。現在のPTA会員数は752名、本部役員18名で活動しています。本校の沿革、PTA活動の詳細につきましては、ホームページ（<https://dmzcms.hyogo-c.ed.jp/kitasuma-hs/NC3/>）をご覧ください。

私たちは常に今からやろうとしている活動が本当に子どもたちの笑顔につながっているのかを考えるようにしています。例えば文化祭で模擬店を出店するときも自分たちが良いと思うものを選択するのではなく、生徒会にアンケートを取ってもらい生徒の希望が一番多いものに決定しました。模擬店出店と同時に制服リユースも実施し、どちらの売上も全額生徒会へ寄付しました。

ただ、私たちの活動が単に生徒会活動の原資になっているだけで十分と考えている訳ではありません。模擬店出店を私たち自身が楽しむこと。それを一番に考えました。子どもの笑顔を見れば私たちが幸せになるように、私たちの笑顔は子どもたちを幸せにするはずです。子どもたちに負けなくらい私たち自身が笑顔でいることが、北須磨PTAにとっての「よい保護者になること」です。そして、その笑顔の輪を学校、同窓会、地域へと広げていくためにこれからも歩みをとめず活動を続けていきたいと思ひます。

（PTA会長 桜井智也）



津名高等学校のPTA活動

県立津名高等学校

淡路市にある津名高等学校は、1920年1月1日に志筑町立志筑技芸女学校として設立され、その後、男女共学となりました。現在1年生は文理探求科、2・3年生は総合科学コースを含む各学年普通科4クラスになっています。現在創立105周年を迎えます。PTA活動を通して、生徒達の成長を教師の皆様とともに裏から支えています。生徒達の高校生活が充実するように一年を通して様々な活動を行っています。

行事としては、一学期の文化祭ではスローガン「青春アップデート～思い出リアルタイムで更新中～」を掲げ、一日目はしづかホールでクラス対抗の合唱コンクールを行いました。二日目は学校にて文化部を筆頭として中庭のステージで発表を行い、3年生が模擬店を出店して、生徒、保護者はもちろん、地域の方々も多く参加されています。二学期の体育祭では、クラスごとに話し合い、デザインを考え、伝統的にクラスTシャツを作成しています。当日にはクラスみんなでクラスTシャツを着用して、クラスで団結して体育祭に臨んでいます。そんな体育祭や文化祭ではPTAとして、駐車場整理を手伝いさせてもらい、裏方として行事の運営の補助を行わせていただきました。また、交通安全週間には、交通立ち番をして生徒達が安全に登校する見守りを行っています。

クラブ活動としては、ソフトテニス部が団体戦個人戦で近畿大会、個人戦で全国大会に出場しました。また、7月31日にはギター・マンドリン部が大阪・関西万博のイタリアパビリオンの円形劇場でミニコンサートに出演しました。

津名高等学校PTA規約の中には、目的として「生徒のしあわせを願う保護者と教職員が共に学びつつ、学校と家庭と地域社会が緊密な連携のもとに、教育環境の改善と福祉の増進に努め、併せて正しい教育世論の形成を図ることを目的とする。」と書かれています。保護者として裏から支え、見守るだけでなく、子どもたちと一緒に学び、成長していきたいと思ひます。そして、津名高校の伝統を大切に、新しく次の世代に向けて学校の良さを繋げていきたいと思ひます。

（PTA会長 橋本 豊）

『県高サポーター制度』の取り組み

県立伊丹高等学校

本校は、阪神間で最も歴史のある全日制普通科高校です。明治35年創立の県立伊丹中学校と大正10年創立の伊丹高等女学校が合併され、今日の県立伊丹高等学校として、今年で創立123年目を迎えます。

また、普通科の中に特色類型である「グローバル・リーダーズ・イン・サイエンス (GLiS)」類型を設置し、自然科学や社会科学について探究を進めており、学校をあげて「グローバル・リーダー」の育成に力を注いでいます。

生徒たちは校訓の「誠実・克己・忠恕」のもと、自主、自立をモットーに自由な校風を守り続けて、また、「生徒の自治活動」を重視し、学校行事等も生徒主導で企画運営を進めています。

PTA活動は、緑窓会と呼ばれる同窓会とともに互いに協力しながら学校や生徒の支援に取り組んでいます。令和6年度から、『県高サポーター制度』を取り入れ、これまで何かと強制的であったPTA運営方法を見直し、必要な時、興味のある活動へ保護者が自主的に参加できる場(会)として運営し、子どもが通う学校へ足を運び、子ども達の健やかな学校生活のサポートを目的とします。年々、賛同者が増え好評な行事が定例化してきています。

PTA行事としては、築山やプリンス池がある本校の春秋の清掃作業は大規模で5月には家族連れやOBも含め80名で落ち葉や雑草150袋、枯木、枯枝も集められました。6月の県伊祭では70名のサポーターがシフト制で恒例のパンや飲み物の販売を担当し、新入生向けだった制服リユースは成長しサイズアップした在校生向けも増やし県伊祭でも実施しました。年末には、外部講師による人気の寄せ植え講座を予定しています。

積極的に参加してくださるサポーターさんと



時代に合わせ「気楽に楽しく」活動しています。
(サポーターリーダー 一同)



新たな一歩を踏み出したPTA活動

県立川西緑台高等学校

この春から、緑高PTAは少人数で新たなスタートを切りました。

「できる人が、できる時に」を合言葉に、役割に縛られず、それぞれができる範囲で力を出し合うスタイルで活動しています。今後は、必要に応じてボランティアを募集し、無理のない規模でイベントを開催していく予定です。

新体制での最初の取り組みは「リユース」をテーマにした制服譲渡のイベントでした。当日は、ボランティアの方々が前半・後半に分かれて短時間で協力できる仕組みとし、無理のない形で支えていただきました。初めての開催でしたが、盛況に終わりました。

また、広報誌づくりにおいても、先生紹介やタイムスケジュールなど必要な情報に絞り、簡素化を図りました。さらに「顔写真は載せたくない」という声には、イラストに差し替えることで対応しました。

今後もこのスタイルを大切にしながら、部活動や本校ならではの特色ある活動に対する補助・支援など、本来のPTAの目的である「子どもたちのための活動」を続けていき、その歩みを会員の皆さまへお伝えしながら、共に活動を重ねていければと思います。

(川西緑台高校PTA一同)



『小さな活動に大きな想いを込めて』

県立鳴尾高等学校

昭和18年（1943年）当時の鳴尾村に、全国でも珍しい、村立の旧制鳴尾中学校が創立しました。昭和25年に現在の兵庫県立鳴尾高等学校に校名を変更。武庫川と枝川（現在の甲子園筋）に囲まれた小さな村でしたが、村民の教育に対する大きな期待と熱意で生まれた本校は、各界で活躍する卒業生2万人を誇る伝統校になりました。令和5年度には創立80周年を迎え、記念式典を挙行了いたしました。これからも21世紀をリードしていく人材の育成を目指して躍進しているところです。

さて、本校PTAは、子どもたちの健やかな成長を支えることを目的に活動を続けています。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響を受けたここ数年は、従来のような行事や活動を実施することが難しくなり、その後も「大幅に縮小した形」での運営が続いています。現在は、規模を抑えながらも工夫を重ね、持続可能な活動を心がけています。

その中でも、主な活動は地域清掃と制服リサイクルです。地域清掃活動については、生徒・保護者・教職員が協力して学校周辺をきれいにする姿に地域の方から温かい声をいただき、小規模でも続ける意義を感じています。

制服リサイクルは、卒業生や保護者のご厚意で寄付いただいた制服を整理し、希望者へ譲渡する取り組みです。経済的な負担を軽減できるだけでなく、物を大切に使う意識を子どもたちに伝える良い機会にもなっています。利用された保護者からは「本当に助かる」との声を多くいただいております、PTAならではの活動として大切にしています。

活動規模は大幅に縮小しましたが、その分、一つひとつを丁寧に行うことを大切にしています。参加した保護者からも「負担が少なくなり参加しやすい」「無理のない範囲で関われるのありがたい」との声が寄せられています。

今後も「持続可能な活動」を合言葉に、学校と協力しながらアットホームな雰囲気を大切にして、地域清掃や制服リサイクルを中心に取り組みを続けていきたいと思ひます。

（PTA会長 篠崎志那子）

生徒たちの学校生活を支える育友会

県立尼崎工業高等学校

本校は、機械、建築、電気、電子の4学科を有する、創立88年を迎える歴史と伝統のある工業高校です。地域では「尼工（あまこう）」の愛称で親しまれ、地元兵庫はもとより全国の産業界で活躍する多くの人材を輩出してきました。

各学科とも、座学だけでなく、実習や体験学習を重視しているため、実践的な技術を身につけることができ、卒業後の進路に直結する学びが多いのも特徴です。

育友会は、本校の生徒たちが充実した高校生活を送り、健やかに成長できるよう、保護者が主体となって活動しています。

家庭と学校、そして地域社会との連携を深め、生徒たちの教育環境をより豊かにすることを目指しています。

学校行事への協力として、体育大会での保護者受付のお手伝い、尼工祭（文化祭）での育友会模擬店出店、オープンハイスクールでの保護者質問コーナーの担当など、保護者の視点から学校行事へ協力しています。

生徒への支援として、体育大会での生徒席に使用するテントの支援、部活動の大会出場時の支援、尼工祭でクラスごとに着用するクラスTシャツの支援、卒業生への卒業記念品の支援などを行っています。生徒たちの学校生活全般をサポートしています。

環境整備として、教育に必要な設備の充実にも協力しています。

今年度より本校のInstagramが開設されました。育友会も学校公式Instagramを利用させていただけることになり、今後は紙の広報誌の発行よりもInstagramを利用した、育友会活動の広報にも力を入れていきたいと思ひます。

育友会の活動は、生徒たちの成長を温かく見守り、支えるための大切な基盤です。保護者の皆様のご理解とご協力により、生徒たちのより良い学びと成長に繋がります。

学校と家庭の両輪で、次代を担う人材の育成を目指し、手を取り合って進んでいくことを願っております。

（育友会長 松宮 智子）

「歩んだ40年、広がる未来へ」

県立北摂三田高等学校

本校は、本年創立40周年を迎える、三田市に位置する県立高校です。豊かな自然と地域に囲まれた環境の中で、「勉強・自律・敬愛」の校訓のもと、「北三は文武両道を目指す学校」と言われています。

40周年の節目となる今年度、本校では未来に向けた三つの新たな取り組みを進めています。アジア諸国との交流、DX加速化推進事業、そして「地域共創プロジェクト」の計画、実施。これらの実践的な学びを通して、生徒たちは社会とのつながりを実感しながら成長しています。

私たち育友会は、こうした学校の姿勢に寄り添いながら、保護者と学校、そして地域をつなぐ役割を担っています。行事の支援や広報誌の発行、講演会の運営、美化活動などを通じて、「関わってよかった」「楽しかった」と思えるような、参加しやすく前向きな活動を心がけています。

昨今、PTA・育友会の在り方についてはさまざまな議論がされています。任意加入であることや、活動の負担感についての声もあり、私たち自身もその現実を受け止めつつ、活動の目的や意義をあらためて見つめ直す時期に来ていると感じています。

PTA・育友会の本質的な目的は、「子どもたちの健やかな成長を支えること」そのためには、時代に合った柔軟な運営と、無理なく関わられる仕組みづくりが欠かせません。役員や委員の負担軽減、活動の見える化などを通じて、「参加してよかった」と思える場を増やし、PTA・育友会そのものが「楽しめる存在」であり続けることが、今後の存続と発展につながるのではないかと考えています。

今後も学校と共に歩みながら、保護者・地域・子どもたちが笑顔でつながるような活動を目指して、明るく前向きに取り組んでまいります。

（育友会長 岡見 咲織）

「子供たちの成長のために」

県立篠山産業高等学校

本校は1933年（昭和8年）に多紀実業高等公民学校として開校し、1963年（昭和38年）に現名である県立篠山産業高等学校と改称されました。

校訓「自律、協調、不屈、創造」を教育理念として、産業の発展と地域を支える人材をたくさん輩出させるため、「しなやかさ」と「強さ」を身に着けた「スペシャリスト」を育成するという考えを基に、機械工学科、電気建設工学科、総合ビジネス科、農と食科への学科改編が完了し、小規模ながらもバラエティに富んだ学科を持つのが特徴です。国家資格取得への取り組みも積極的で毎年たくさんの生徒たちがいくつもの資格を取得されているという実績もあります。

生徒たちの取り組みを見ておりましても、地域との交流、幼稚園や小学生たちとの体験会や駅前でのイルミネーション作り、また実際に農家の方やものづくりに携わっておられる方々を講師として招き教を頂いたり、その探求心や行動力は本当に感心させられるものばかりです。

地域だけには留まらず、「ラオスに学校を」と文具を集め寄付したり、SDGSの問題においても生徒たちが主体となり取り組んでいます。

PTA活動と致しましては、「みんなで歩もう、子供たちの夢の実現にむかって」というスローガンを掲げ、子供たちの成長を願い応援しながら、私たち保護者も共に成長させてもらうという目標を立てております。

役員の定例会、学校前や駅前での挨拶運動、地区祭りでの見守り運動、年1回の広報誌の発行等が主な活動ですが、スローガンにもありますように、保護者、先生方、PTA役員が一つになって子供たちの成長を後押しできるよう取り組んで参りたいと考えております。



生徒たちの手で補修したベンチ

（PTA会長 永田 充）

次世代のリーダーを目指す明石西高

県立明石西高等学校

明石西高等学校は、昭和51年全日制普通科高校として開校し、平成15年には普通科英語コースを改編しグローバルな感性を磨く国際人間科を設置しました。

また、平成20年には次世代のリーダーを目指す人材を育成する教育類型を設置し、多様な学びの場を提供する高等学校として、今年度には創立50周年を迎え、11月に記念式典を行う予定になっています。

校訓『自律』『協同』『誠実』の理念のもと、確かな学力とチャレンジ精神を備え、夢や目標の実現に向かって様々な課題に主体的に取り組み、国際社会で活躍し、リーダーシップを発揮できる人材となれるよう西高生は日々学業に部活動にと邁進しています。

また、オーストラリアとマレーシアの学校と姉妹校提携を結び国際交流を推進するとともに、海外への修学・研修旅行を実施し国際理解教育の充実を図っていて、国際人間科はもとより普通科の英語力向上を目指しています。

『チャレンジ明西』のスローガンのもと一人ひとりが主役となり、チャレンジ精神をもって自分の夢の実現へ向け挑戦できる生徒が育っています。

このような活動をPTAでは多方面からサポートし、生徒・教師・保護者・地域の方々が一体となるように、様々な課題に立ち向かい楽しく明るくをモットーに活動しております。学校行事の明西祭では、制服リサイクルとパン＆ジュースの販売等で参加し、体育大会では、保護者の方々と教師軍団との綱引き対決を行い、大いに盛り上がりました。

今後も、PTAでは西高生の夢へのチャレンジを応援し続けていきたいと思っております。

（県立明石西高校 PTA一同）



よりよい高校生活を願って

県立高砂高等学校

本校は大正12年に高砂町立高砂実科高等女学校として創立され、昭和23年の学制改革、昭和25年の県立移管を経て、現在の県立高砂高等学校となり、一昨年には創立100周年を迎えました。

本校では多様な生徒の進路に対応するため、文系、理系、スポーツ系、看護医療系の類型を設置し、生徒の「夢」の実現に向けて取り組んでいます。中でも「スポーツ系」「看護医療系」の類型においては日常の授業と行事を通して「特色ある教育」を推進しています。

部活動では、柔道部、バレーボール部、陸上競技部などが近畿大会に出場し、ジャズバンド部がジャパン・スチューデント・ジャズ・フェスティバルで何度もグランプリ（全国1位）を受賞しています。また本校ジャズバンド部は上野樹里さん主演の映画「スウィングガールズ」のモデル校としても広く知られています。



PTAの活動としては、文化祭でのスイーツの提供、チャリティーコンサートでの物品販売による募金協力、体育大会での熱中症対策、登校指導、研修旅行企画、クリーンデーでの清掃活動、会報誌の発行など、年間を通じほぼコロナ前と同様の様々な活動を行っています。しかし今後は、少子化に伴う会員の減少などPTAを取り巻く状況の変化も視野に入れながら、新しいPTA活動の形を模索していく必要があると感じています。試行錯誤を重ねながらも、学校・地域と連携し、生徒たちが有意義で充実した高校生活を送れるよう保護者として後押しし、見守っていけたらと思っています。

（PTA会長 大國 未来）

本校の育友会活動

県立錦城高等学校

本校は昭和26年に明石市立東高等学校として創立されました。その後、昭和40年に兵庫県に移管され、「兵庫県立錦城高等学校」として校名を改称し、今年で60年になります。汗して働き、意欲をもって学ぶ、精一杯努力するという校訓「労学一如」のもと、魅力ある学校づくりに先生方と育友会、地域が連携して取り組んでいます。定時制の状況は大きく変化し、生徒はここ数年大幅に増加し、多様な生徒が入学しています。学び直しの充実により、わかる授業の展開と学力向上、3年間で卒業できる「3修選択授業」の実施等々、生徒一人ひとりが持つ個性や可能性を最大限に伸ばし、生徒に寄り添いながらきめ細やかな指導をしていただいています。また、社会的自立に向けて成長することや将来の夢や希望を実現させる学校として、先生方は卒業まで心を込めて生徒と向き合ってくれます。「中学校の時は学校に行けなかったけど、錦城に来てよかった。」「先生との距離感がとても近く、学校に行けるようになった。」などの生徒の声が、教育活動の成果だと言えます。

育友会では、文化祭では生徒に楽しんでもらえる育友会ブースを設けたり、地域と連携して食を通したふれあいと対話の場を目指した「錦城カフェ」を年3回開催するなど魅力ある教育環境づくりを応援しています。温かく前向きな活動を通じて、保護者同士のつながりが生まれ、学校との距離もぐっと近くなります。「ちょっとだけ手伝ってみようかな」という気持ちが、子どもたちにとって大きな力になります。

生徒が未来を切り拓く力強さと、他者の気持ちを理解・共感できる優しさを持ち、地域の一員としての自覚を高め、自己のキャリア形成の方向性を思い描けるには、育友会としてどんなお手伝いができるかをこれからも模索していきます。

（育友会長 波戸崎 由香）



西脇北高校のPTA活動について

県立西脇北高等学校

西脇北高校は、北播磨地区唯一の独立校舎をもつ定時制高等学校として、地域と共に歩んできました。平成21年には多部制・単位制に改編され、多様な生徒の学びを支える学校へと発展。現在は「真心をもって 手を取りあって 正しく あかるく たくましく」の理念のもと、生徒一人ひとりが自分の将来像を描き、実現に向けて歩むことを目指しています。

学校の大きな特色の一つが、地域とつながるボランティア活動です。地域の課題に気づき、自ら行動できる力を育むため、ボランティア部を中心に「自分たちにできること」を計画・実施しています。中でも、放課後に地域の清掃活動を行う「放課後ちょボラ」は、生徒が気軽に参加できるよう定期的に実施されており、地域の方々からも温かい声をいただいています。こうした活動は、生徒たちに達成感や責任感を育むだけでなく、地域との絆を深める貴重な機会となっています。

また、防災教育にも力を入れており、災害時に即戦力となる人材を育成するため、学校設定科目を複数設置しています。今年は令和6年能登半島地震の被災地支援として募金活動を行い、多くの生徒が主体的に取り組みました。育友会役員もこれに参加し、子どもたちの活動を全力で支えました。

私たち育友会は、学校や地域と連携し、生徒が安心して学び、成長できる環境づくりをサポートしていきます。生徒が自信と誇りを持ち、社会で活躍できる人へと成長していく過程を、これからも地域の皆さまと共に見守り、応援してまいります。

（育友会会長 藤本 留実）

夢の発見、そして実現へ

県立神崎高等学校

本校は、兵庫県のほぼ中央部に位置する神河町にあり、近隣にはハイキングやスキー等ができる場所があり、自然を身近に感じられる学校です。

本校は、1948年11月1日に被服科1学級の学校である兵庫県立福崎高等学校粟賀分校として、神崎郡北部住民の切なる願いにより開校さ

れました。その後、学級増、普通科併設、全日制移行等について、地域住民の精力的な活動が実を結び、1977年に普通科2学級の兵庫県立神高等学校として独立し、今年4月で49回目の創立記念日を迎えました。

本校は、2004年度より「ディスカバリー・ハイスクール神崎」をキャッチフレーズに掲げ、生徒が自らの夢を発見し、それを実現できる学校を目指しております。去る6月には、文化祭の「神高祭」が開催されました。今年度のスローガンは「桜梅桃李～expressyourself～」であり、生徒一人ひとりが個性を発揮し、互いに尊重し合う姿勢が示されました。

1日目は、生徒会執行部による南中ソーランが力強く披露され、会場全体が一体となる熱気に包まれました。文化部によるステージ発表もあり、書道パフォーマンスは圧巻でした。午後の合唱コンクールは、各クラスの団結力が感じられるすばらしいハーモニーを響かせました。2日目には、2、3年生による創意工夫を凝らしたクラスドラマの発表が行われ、午後からは模擬店が開かれました。模擬店では、生徒・保護者・地域の皆様が交流を深める場となり、大変な賑わいを見せました。

PTAとしても模擬店に出店し、活動の一環として学校行事の盛り上げに尽力いたしました。今回の出店の目的は、生徒たちの活動を支援するだけでなく、保護者同士や地域の方々とのつながりを深めることにもあります。準備・運営にあたり、多くの保護者の皆様にご協力いただき、無事に終えることができましたことを、ここに報告申し上げます。

さらに、生徒の皆さんが、このような学校行事を通して、主体的に取り組む姿勢や仲間との協力大切さを学び、将来、社会に出た際にも活かせる力を培ってほしいと願っております。「ディスカバリー・ハイスクール神崎」の教育理念のもと、文化祭での経験が一人ひとりの夢の発見と実現へとつながることを、PTAとしても大いに期待しております。

今回の文化祭を通して、生徒たちが自ら考え、仲間と協力し、表現する力を確かに育んでいることを感じることができました。PTAは今後も、学校行事をはじめとする教育活動を支え、生徒一人ひとりが「ディスカバリー・ハイスクール神崎」のキャッチフレーズのもとに夢を発見し、それを実現できるよう、保護者として力を尽くしてまいります。

（PTA会長 豊田 真弓）

がんばる龍高生をサポートする育友会

県立龍野高等学校

自然豊かで美しい景観に恵まれたたつの市にある県立龍野高等学校は、2027年に創立130周年を迎える伝統校です。地域に愛され、期待される本校の生徒たちは、「向上・友愛・団結」の校訓のもと、勉強や部活動に真摯に取り組んでいます。

私たち育友会は、学校と家庭が手を取り合い、生徒たちの健やかな成長を支えることを目的とし、生徒たちが充実した学校生活を送れるよう、さまざまな教育活動や環境づくりをサポートしています。育友会組織は、本部役員に加え、理事が所属する3つの委員会（広報委員会、課外活動委員会、育成・保健委員会）で構成し、互いに協力しながら楽しく活動しています。6月には、龍野高校最大のイベント「昇龍祭」（文化祭）で、フランクフルトの模擬店を出店し、生徒や保護者と楽しいひとときを過ごすことができました。その他にも、体育大会やクリーン作戦といった学校行事への参加、進路用書籍や生徒が利用できるコピー機の購入支援、部活動や研究に励む生徒へのサポートなど、幅広い活動を行っています。また、会員同士の研修や交流も大切にしています。全国や近畿、県のPTA連合大会に参加したり、研修旅行を実施したりすることで、学びと親睦を深めています。こうした活動内容を保護者の皆様に理解していただくため、昨年度から入学説明会の場で育友会活動について詳しくご説明し、ご納得いただいた上でご入会いただけるようにしています。今年8月、三重県で開催された全国高等学校PTA連合会大会で、井村屋株式会社の中島伸子会長は「一人の100歩より、100人の一歩」という言葉を話されました。私たち育友会も、この言葉を胸に、みんなで力を合わせ、頑張る龍高生をこれからも応援していきたいと思っています。

（育友会長 丸山 岳志）

フロンランナー「姫工」 ～一人ひとりが主人公 目指せ日本～

県立姫路工業高等学校

本校は、昭和11年（1936年）に設置された「兵庫県立姫路工業高校」を源泉とし、今年で創立89周年を迎える歴史と伝統に輝く工業高校です。

国宝姫路城の北側に校舎を構え、教室からも壮大な姫路城の姿を眺められる素晴らしい環境の中、「機械科」、「電気科」、「工業化学科」、「デザイン科」、「溶接科」、「電子機械科」の6つの学科で生徒達は学びを深めています。

「自立 創造 敬愛」を校訓の根幹に据え、技術革新の進展著しい現代に対応した魅力ある工業高校づくりを目指すとともに、「あひる」というスローガンを掲げ、「あ」は挨拶をする、「ひ」は人の話を聞く、「る」はルールを守るという当たり前のことですが、その当たり前のことを着実に実践できる人間力の向上に努めています。

PTA組織については、PTA本部と4つの部会（生徒指導部会、進路広報部会、文化部会、研修部会）で構成され、本部役員は各学年4名の計12名、各部会は各クラスで選出された3～4名の評議員により構成されています。

生徒指導部会では、行事等における来場者の誘導や校内警備等を、進路広報部会では年2回の広報誌の発行・就職希望生徒への面接指導を、文化部会では姫工祭（文化祭）におけるチャリティーバザーや手作り教室の企画・実施を、研修部会ではPTA研修旅行の企画・実施を行っています。

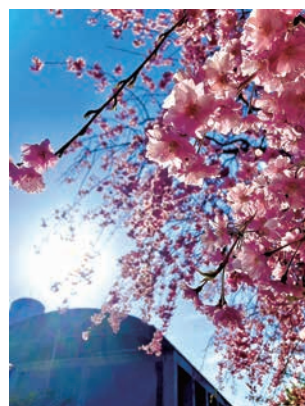
PTA組織については、その在り方に様々な議論がなされているところではありますが、本校では丁寧に活動の趣旨を説明し、ご理解いただき、今後も学校運営と生徒達の教育活動を支援していきたいと思えます。

（PTA会長 井神 朋宏）

ともに学び、ともに育つ

県立大学附属高等学校

兵庫県立大学附属の併設型中高一貫教育校である本校は、『創造』～創造と進歩の人たれ～を校訓としています。自ら考え、主体的に学び、個性を伸ばし、自分と社会の未来を切り拓く「世界のパイオニア!」をテーマに掲げています。そして、学術研究の後継者や、国際感覚豊かで創造性あふれる人材の育成をスクールミッションとしています。高大連携教育を特徴とし、DXハイスクール、ひょうごリーダーハイスクール指定校として、生徒は日々邁進しています。



本校PTAは創立以来、歴代の総長・校長先生をはじめとする教職員の皆様、そして保護者とともに、温かい文化と数々の成果を築き上げてきました。春の文化祭では中学校と合同で、模擬店や展示、舞台発表など、生徒主体の企画が校内を彩ります。PTAもパンやドリンクの販売で参加し、学校全体の一体感を共有します。秋の体育大会では、広報紙の写真撮影を通して、真剣な眼差しで競技に臨む生徒の姿を間近に感じられます。年間を通じて研修会や講演会も開かれ、現代を生きる高校生の保護者としての在り方を学ぶ機会をいただいています。

時代が変わっても、親子の絆は不変です。しかし、子どもを取り巻く環境は急速に変化し、将来の見通しが難しい今こそ、青春のエネルギーと柔軟な発想を生かし、未知へ踏み出す勇氣と回復力が求められます。PTAは学校と密に連携し、生徒の成長を支える伴走者として、豊かで包括的な人間関係を築いてまいります。縦と横のつながりに加え、斜めの視点からも「鷹の目、蟻の目」で見守り、細く長く、そして末永く活動を続けてまいります。

（PTA会長 川上 百里）

主体的な活動に感謝

県立村岡高等学校

香美町村岡区にある超小規模な村岡高校。ハチ北スキー場のほど近くに位置しています。みなさんもスキーやスノボで訪れたことがあるのではないのでしょうか。スキー部としては毎年インターハイ出場選手を輩出している本校では「地域アウトドアスポーツ類型」で全国募集をしています。

また、その類型のひとつである「地域創造系」では、地域密着型の学習プログラムも展開しています。そして地域密着型といえば、「みかた残酷マラソン全国大会」と「村岡ダブルフルウルトラランニング大会」へ全校挙げてのボランティア参加。ランナーからも厚い信頼を得ています。私たちPTA役員・会員も去る6月のみかた残酷マラソンにボランティアとして参加しました。子どもたちはみな率先して役割を手際よくこなしていました。そんな子どもたちの活動を見せられて私たち親も刺激を受けました。この子どもたちがめいっぱい活動するために私たちPTAが支えることができれば…と。

かつて私たちも高校生だったときがありました。あの頃のことは今でもずっと残る思い出で、今に生きていて、あの頃の友は今も一番のよき友です。そんな思い出や一生の友をわが子たちにもいつか持ってほしい…そう願って。

恥ずかしながら私がこの会長職に就いたのは、はずれくじからでした。仕方なく始まったのですが、役員になってくださった方々の協力的なことで、各行事において役割が分担されていて、副会長のみなさんが主体的に動いてくださることにとても助けられています。きっと役員のみなさんも少なからず私と同じようなわが子への思いがあるのだなと感じています。

おかげさまで1年間がんばれそうです。

（PTA会長 大林 尚代）



『無理なく・頑張りすぎず・楽しみながら』

県立豊岡総合高等学校

本校は、県立豊岡実業高等学校と県立豊岡南高等学校との発展的統合により、2003年に兵庫県立豊岡総合高等学校として開校されました。総合学科と工業科を併置している県内唯一の学校で、総合学科、環境建設工学科、電機応用工学科がそれぞれの学科の特色を活かした教育活動を展開しています。

本校の校訓は「立志探究」です。これには、生徒が志を抱き、自らの夢の実現に向かって主体的に学び、深く探究する姿勢を育むという思いが込められています。高校生活の3年間を通じて、思いやりの心、基礎的な知識・技能、確かな専門技術を備え、主体的に未来に挑戦し、社会に貢献できる人材の育成をめざしています。

また、生徒は幅広い選択科目の中から、自分の進路や興味に応じた学びを自由に組み立てることができます。地域の課題解決をテーマとした探究活動や、専門性の高い実習、多種多様な資格・検定にも挑戦し、自らの新たな可能性を切り拓く『生きる力』を育むことを目指しています。

本校PTAは今年度から本部役員以外の各委員会を廃止し、保護者が子供のために自主的に参加できる『サポートスタッフ制度』を導入しました。募集したところ、30名以上のサポートスタッフが集まり、嬉しい限りです。

サポートスタッフが都合に合わせて行事に自主的に参加し、生徒たちと一緒に盛り上げています。

9月に行われた『豊総祭』には、生徒たちの模擬店と合わせてPTAでバザーを行いました。サポートスタッフの方からは、子供たちが楽しそうに取り組む姿や学校生活を見ることが出来てよかったと喜びの声を寄せていただきました。

豊総生の夢の実現に向けて、学校と家庭、地域が連携し、生徒たちの個性と可能性を伸ばしていけるよう、『無理なく・頑張りすぎず・楽しみながら』PTA活動を続けていきたいと考えています。

（PTA会長 藤本 隆弘）

兵庫が育む ころ豊かで自立する人づくり

～「『絆』を深め、『在りたい未来』を創造する力」の育成～

兵庫県教育委員会

兵庫県公立高等学校PTA連合会の皆様におかれましては、平素より、本県教育行政の推進にご支援いただきとともに、身近な存在として、学校を支えていただいておりますことに、深く感謝申し上げます。

本県では、令和6年3月に5年間の本県教育の取組の考え方や具体的な施策を示す第4期「ひょうご教育創造プラン」を策定しました。本プランでは、基本理念を「兵庫が育む ころ豊かで自立する人づくり」、重点テーマを「『絆』を深め、『在りたい未来』を創造する力の育成」として取り組んでおります。また、「学びたいことが学べる魅力と活力ある学校づくり」の実現に向けて、令和4年3月に策定・公表した「県立高等学校教育改革第三次実施計画」に基づき、県立高等学校において取組や改善を推進しております。

兵庫型「キャリア教育」では、兵庫版「キャリア・パスポート」やキャリアノートの小・中・高一貫した活用等により、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的自立に向け、「基礎的・汎用的能力」を育成しています。また、社会とのつながりや社会における自らの役割を考えることができるよう、家庭や地域と連携し、社会体験、就業体験、産業現場における実習の実施等、社会に触れる機会の充実を図っています。

さらに、「教育DX推進室」を設置し、すべての県立学校においてDXプラットフォームへの学習データの集積・蓄積・保存等の活用を促進したり、BYOD端末を活用して、いじめ見逃しゼロや不登校の予兆の発見につながる「心の健康観察」を導入したりと、あらゆる場面でDXの推進に取り組んでいます。

特別支援教育においては、近年、特別支援学校中学部や中学校卒業後の進路選択の多様化、高等学校に

おける通級による指導の制度化等、障害のある子どもを取り巻く教育環境が大きく変化しています。そこで、インクルーシブ教育システムの理念を踏まえつつ、これまで主に県立特別支援学校高等部段階で進めてきた取組をもとに、すべての学部における教育を一層充実させるために「インクルーシブな学校運営モデル研究協議会」において、令和7年3月に提言をとりまとめました。今年度は提言の具現化に向け兵庫型インクルーシブな学校運営モデルの構築を進めていきます。

魅力と活力のある学校づくりには、保護者、地域の方々や自治体、企業など、地域社会と協働しながら、創意工夫ある取組・活動を進めることが重要です。特に県立学校においては、地域社会が学校を支援する体制の充実を図る「兵庫県版コミュニティ・スクール」の拡充を進めるとともに、今年度より「地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づくコミュニティ・スクール」を10校で実施し、魅力と活力ある県立学校づくりの促進を図っております。

また、「PTCA活動支援事業」においては、PTAの皆様を核として、地域の方々(Community)とともに、学校や地域の特色を生かした取組を推進していただいております。

本県ではこれらの活動を柱として、「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」を支援してまいります。

兵庫県公立高等学校PTA連合会の皆様には、学校・家庭・地域を結ぶネットワークの要として、本県教育の発展にご協力をお願いするとともに、皆様の益々のご活躍をお祈り申し上げます。

●●●●事務局だより●●●●

兵庫県公立高等学校PTA連合会会員の皆様には、平素から各事業へのご支援とご協力をいただき、深く感謝申し上げます。

さて、今年度は7月に近畿地区高等学校PTA連合会大会「兵庫大会」をアクリエひめじで開催いたしました。実行委員やPTAの皆様には、ご多用の中、大会準備と運営に多大なるご尽力を賜り、心から感謝いたします。

当日は、晴天にも恵まれ近畿各地から700名あまりの現地参加および56校のウェブ参加がありました。兵庫県からも多数の参加者を得て、盛会のうちに無事終了しました。誠にありがとうございました。

8月には全国高等学校PTA連合会大会「三重大会」が開催され、全国各地から多数の参加があり兵庫県からは、現地参加16校59名、オンライン参加16校でした。

ご案内のとおり、12月6日(土)に兵庫県高P連研究

大会が神戸芸術センターで開催されます。今年の担当は神戸・淡路地区で、主管校の舞子高校をはじめ実行委員会のPTA(育友会)の皆様及び先生方には多大なるご尽力をいただいております。ありがとうございます。大会において、PTCA活動の研究成果を発表いただいた指定校の各会長様、また「高P連ひょうご」に寄稿いただいた皆様に厚くお礼申し上げます。

今後の行事予定

- 令和8年1月23日(金)
兵庫県公立高等学校PTA連合会第3回理事会
- 令和8年7月4日(土)
第51回近畿大会(和歌山) 場所:和歌山城ホール
- 令和8年8月20日(木)～21日(金)
第75回全国大会(大分) 場所:大分市、別府市